

論文の内容の要旨

論文題名

Encouraging outpatients in an acute hospital for the relief of cancer-related pain: a qualitative study

(急性期病院の外来患者が直面するがん性疼痛の緩和と増悪のプロセスの解明：質的研究)

掲載雑誌名

BMC Palliative Care Vol.22 No.109 2023 年 掲載

薬学研究科(病院薬剤学分野) 日向 美羽

内容要旨

【背景・目的】急性期病院の外来患者が直面するがん関連疼痛の緩和と増悪の過程を明らかにし、外来患者の疼痛コントロールに必要な支援を検討した。

【方法】昭和大学横浜市北部病院の外来にて医療用麻薬により疼痛管理を行った患者を対象に、半構造的個インタビューを実施した。参加者は、目的的サンプリングでサンプリングした。録音データから逐語録を作成し、テキストデータとして継続比較法により分析した。

【結果】2018年4月から2022年4月にかけて、30名の参加者に対してインタビューを実施した。逐語録の分析により、27の概念から13のカテゴリーが生成された。カテゴリーの関係を検討し、概念図を作成した。外来患者は医療者への相談に躊躇する状態から、病院や地域薬局の医療者による個別のフォローアップを受ける事で、患者からの電話などによる相談により、痛みの改善に繋がっていることがわかった。一方で、外来患者が相談をせず我慢をすると痛みが悪化し、痛みのコントロールがうまくいかないという負の連鎖に陥ってしまうことがわかった。

【考察】急性期病院の外来患者が経験したがん関連疼痛の緩和と増悪の過程から、遠隔または対面での面接によるフォローアップの実施は、患者と医療従事者の関係構築に役立ち、疼痛管理において重要な役割を持つことが明らかとなった。